

公表

## 事業所における自己評価総括表 【みらい工房たんぽぽルーム】

○事業所名	みらい工房たんぽぽルーム		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 12日		～ R8年2月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	R8年 1月 12日		～ R8年1月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 17日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	障害種別や学校等関係なく受け入れを行っており、コミュニケーションの幅が広い。	障害種別等で活動を分けるのではなく、知的障害の方も身体障害の方もどちらも楽しめる活動内容に心掛けている。	適宜利用者さんへの聞き取りを行い、新しい活動を取り入れたりするなど、利用者さんの意見を多く反映できるようにしたい。
2	併設事業所としてみらい工房だいち(生活介護)があり、連携を取ることが可能である。	送迎は生活介護利用者様と合同であり、職員も同様であるため、急な職員の休みの時にもすぐに支援に入ることができる。また、高等部の実習の際にも併設事業所の為、環境適応は早い。	土曜の生活介護営業日等には合同で何かできないか模索中である。
3	ドアトゥドアの送迎を実施しており、保護者様送迎が難しい方が利用しやすい。	併設事業所のだいち、隣接するおおぞらと協力し、送迎コースを組むことにより、ドアトゥドアの送迎を維持している。	安全対策として委託のドライバー採用を取り入れている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	年齢層が小1～高3までを対象としてしているため、活動内容のレベルを合わせるのが難しい時がある。	職員数3～4名で行っている為、全体活動中心の組み立てになってしまうことが多い。	職員数を十分確保できれば、グループ分けも可能であるが、全体活動をすることによりコミュニケーションの幅が広がると考えているため、そのあたりのバランスをどう取っていくか検討している。
2	利用者さんの性別割合は半々程度であるが、それに対して職員は女性が多めの傾向にある。	職員配置の資格要件に保育士や児童指導員所持が求められるため、女性が多い傾向にある。引き続き採用活動は実施している。	生活介護と連携し、同性介助の必要なところは協力して支援している。
3	5時半以降の事業所での長時間預かりが難しい。	ドアトゥドアの送迎の為、17時30分には勤務の職員が送迎に出してしまう為、残れる職員が不足している。	送迎コースを最後にするなど工夫している。